

歴史学科と京都学・歴彩館

本学歴史学科と京都府立京都学・歴彩館は、共同で多くの活動をおこなっています。今回は 2019 年度に実施された活動について紹介します。

デザイン研修 西陣遠足

11 月 10 日、堀川通のイチョウが黄金色に輝く秋晴れのなか、京都学・歴彩館寺子屋講座「京都の歴史を歩こう！西陣編」が実施されました。企画と案内は例年通り、文化遺産デザイン研修メンバーによるものです。

戦乱や災害、西陣織の需要減などの危機と、そこからの復興・脱却を繰り返した西陣。そうした歴史を伝えるべく、今回、デザイン研修メンバーは「再生^{リボーン}」というテーマを設定しました。そして当日は、西陣織会館を起点に辻子を通ったり本隆寺に立ち寄ったりしながら、「再生」という視点から西陣の魅力を伝えられる工夫をしました。

来年度も新たな地を舞台に遠足を実施する予定です。ぜひご参加ください。

府大生∞歴彩館 コラボで探る京都学

現在、京都学・歴彩館 1 階展示室にて「府大生∞歴彩館 コラボで探る京都学」という展示が開催されています。

歴彩館と京都府立大学文学部は、同じ建物に存在する特徴を活かして昨年度からコラボの展覧会を開催しています。府立大学の学生・院生が歴彩館の所蔵する資料を通して学び、その成果を発表するというのがコンセプトです。今回の展示では、歴史学科担当分は 5 部から構成されています。それぞれが京都にちなんだテーマとなっており、歴彩館に所蔵される歴史資料に解説を添えました。

この展示は 11 月 16 日(土)から 12 月 8 日(日)まで開催されています。ぜひ足を運んでみてください。

(川西優帆、薄麻里奈)



遠足の風景（京都市考古資料館前にて）

歴史探訪ウォーキング in 舞鶴

11月17日（日）に舞鶴市多門院地区で歴史探訪ウォーキングが開催されました。

東昇先生による地域貢献型研究（ACTR）の一環で、地元の^{しんたにかずゆき}新谷一幸氏が数年前からおこなっていた歴史ウォーキングを参考に、文化情報学ゼミ生を中心とした学生たちが多門院の歴史について学ぶ遠足を企画しました。

当日は歴史学科から院生1名、3回生4名、2回生2名と、中高校生を含む地元の方21名の計29名が参加し、秋晴れの下、多門院地区の神社や史跡などを散策しました。



多門院地区に伝わる仏像



歴史探訪ウォーキングの様子

多門院地区は京街道と若狭街道が交わる地点に位置しており、数々の伝承や文化財が存在します。今回、新谷氏の調査資料も利用させていただきつつ、学生たちが多門院地区に伝わる仏像や狛犬、蛇切岩伝説、昭和28年の「13号台風」による被害とその復興などについてまとめたパンフレットを作成しました。そして遠足では、その内容に基づいて解説をしていきました。

参加者からは「多門院にこんなに文化財があるとは。知ることができて良かった。」と好評をいただきました。

（安部萌花）

京都文化博物館の展示に参加中です

現在京都文化博物館で開催されている展示に、今年も横内裕人先生と歴史学科の学生・院生有志が参加しました。今回の展示は「道具と材料の職人譜」と題し、文化財を支えてきた様々な道具や材料を紹介しています。例えば掛軸であれば箱、紐、軸木、裏打紙など、私たちがあまり注目することがないものたちも合わせて一つの文化財は作り上げられています。この展示では、それらを作った職人たちにスポットが当てられています。

学生たちは、紙漉や木工、漆工、金工などの現代の職人たちへ取材に行き、そこで見聞きしたことを『令和の職人譜 文化財修理の道具と材料』というリーフレットにまとめました。

11月29日と12月13日には学生によるギャラリートークが開催され、取材での体験や展示品についての解説をおこないます。

《展覧会情報》

総合展示「道具と材料の職人譜」

日時：2019年11月2日～12月22日

10時～19時半（入場は19時まで）

ギャラリートーク：11月29日/12月13日
（18時から30分程度）

場所：京都文化博物館2階総合展示室

詳細は京都文化博物館ウェブサイトへ

▶▶ www.bunpaku.or.jp/

（鈴木美命）